

中尾温泉かまくら祭り参加について

市田 兎太郎

技術室 観測技術グループ（穂高砂防観測所 勤務）

はじめに

今年度、穂高砂防観測所では2月1日～15日まで中尾温泉で開催される、『中尾温泉かまくら祭り』に参加しました。準備段階であるかまくら作りや開催期間中の様子についてお伝えします。

1 中尾温泉かまくら祭りについて

中尾温泉かまくら祭りは毎年2月1日～15日の夜に開催されています。また、20時～21時30分には郷土芸能の獅子舞が披露されたり、餅つき大会なども行われます。会場には、Bar かまくら、豆炭炬燵かまくら、囲炉裏かまくらなど様々なかまくらがあり、年によっては足湯かまくらも作られています。

中尾温泉の方々からのお誘いがあり、観測所の情報公開の良い機会となる事も考え、今年度観測所ではかまくら祭りに参加する事となりました。

また、技術室に技術支援の依頼を行い、富阪副グループ長、米田技術職員、吉田再雇用職員に2.5日間のかまくら作りと2日間の展示対応の支援をしていただきました。

2 かまくら作りについて

かまくら作りの手順は、まず雪山を作り2日間そのまま固めます。その後2日かけてかまくらを掘り一通り完成させ、さらに2日間かまくらを寝かせた後、最終調整を行います。祭りの開催期間が約2週間ある為、開催期間中でも日中にかまくらの確認をして、その都度補修や調整を行います。

作成途中でかまくら内部の広さを確保するには雪山を大きくする必要が出た為、観測所から除雪機を運び、かまくらに向けて雪を吹き付け、雪山の拡大を行いました。また、開催期間中の補修時にも、吹き付け作業を行う事もありました。吹き付け作業によって厚みを得る事で日中に解けた雪がかまくらに浸み込み、夜間に冷えて固まり、より強度が増す為、安全なかまくらとなります。



写真1. 内部を掘り進める作業



写真2. かまくらへの吹き付け作業

3 祭り開催期間中について

観測所かまくらでの展示は、かまくら内部をスクリーンに見立て、プロジェクターで写真を映写しました。映写する写真は、藤田教授や堤准教授から災害現場の写真や、自然の風景写真など 1000 枚以上頂きました。その写真と観測所設立当時の写真を日替わりで映写しました。

また、初日から数日は写真だけを映写し、お客さんと話をするだけでした。しかし、写真だけでは分かり辛い事もあり、場所の名前を表示させるようにしたり、カフェミュージックを流しながら映写してみたりと、お客さんに少しでも気楽に見てもらえるよう改善を行いました。

その他には、かまくら出入口すぐ横と内部に温度計を設置し、気温差がどれだけあるのかを実際に見てもらおうという事も行いました。気温は平均して 5℃の差があり、多くの方がこんなに差があるのかと驚いていました。



写真 3. かまくら祭り当日の様子



写真 4. かまくら内部映写時の様子

4 改善点について

堤准教授の出張と開催期間が重なってしまい、1 週間近くを 1 人で対応する事となってしまいました。また連日平均気温 -13℃で、吹雪の日もあり、なかなか疲れが取れず、精神的にも肉体的にも辛い時もありました。こういった事を受け、次回以降参加する際には、連日 1 人で対応という事にならないよう、当番を決め、場合によっては学生にも参加してもらおうという事となりました。

また、かまくらに直接映写するというのは初めての試みで、うまく映す事が出来るか不安な部分もありましたが、予想以上にきれいに見る事が出来、お客さんからも好評で安心しました。しかし、子供には難しかった事もありあまり楽しんでもらえなかったので、今後は子供も楽しめるようなコンテンツの作成も行いたいと思っています。

おわりに

観測所で一般の方へ向けての情報発信を行ったのは今回が初めてとなりましたが、多くの方から、「こういう場をもっと設けてください。いろいろ知りたいです。」という意見を聞き、情報発信の場を設ける事の必要性を強く感じました。今後はもっと分かり易く楽しめるようなコンテンツを作成し、情報発信できるよう努力していきたいと思います。